

# 平成31年度 校内研修の計画

## 1. 研究主題

主 題 『主体的に課題解決に取り組む生徒の育成』

副主題 ～多面的・多角的な意見交流を活用した道徳科授業展開の工夫～

## 2. 主題設定の理由

中学校学習指導要領(平成29年3月公示)には、「基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努めること」とあり、新しい時代に必要となる資質・能力の育成の方策として「主体的・対話的で深い学び」の実現を挙げている。これは主体的に課題解決に取り組むことの重要性を表している。

また、「特別の教科 道徳」は、平成31年度から中学校で完全実施となる。人格の完成及び国民の育成の基盤となるのが道徳性であり、その道徳性を養うことが道徳教育の使命ということから、「道徳科」の目標は「道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」と示された。指導方法に関しても、発達の段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人が自分自身の問題と捉え、向き合う、「考える道徳」「議論する道徳」への転換が求められている。つまり、道徳科においては、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己(人間として)の生き方についての考えを深める学習を通じて、内面的資質や能力としての道徳性を主体的に養い、日々の生活や将来における道徳的行動や習慣に結び付けるという特別の教科としての特質を踏まえた質の高い多様な指導を行うことが求められている。

そのためには、道徳科の特質を踏まえ、主題やねらいの設定が不十分な単なる生活経験の話合いや読み物教材の登場人物の心情理解に終始する「読み取り」指導の双方を避けつつ、これまで積み上げられてきた指導上の蓄積を生かしながら問題解決的な学習や体験的な学習などを含めた質の高い多様な指導方法に関する実践や研究を深めていく必要があると考えられる。

本校では、『自ら学び自ら考え、共に支え合い高め合える、心豊かでたくましい生徒の育成』を学校の教育目標の基本目標としている。それを基に、具体目標(目指す生徒像)の一つとして『自ら考え学ぶ生徒』を掲げている。そして、学校経営方針の具体方針として、『新学習指導要領の完全実施(令和3年度)を見通した「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、常に授業改善を意識し、授業の中に考える場や表現の場を積極的に取り入れた授業展開を工夫する。』ことを挙げている。本校では平成29・30年度と、各教科の学習過程の工夫に取り組んできた。今年度は、全教職員が共通して取り組むことができる「道徳科」に視点をあてて研修を進める。多面的・多角的な意見交流を活用した道徳科授業展開の工夫が充実することで、生徒がより主体的に課題解決に取り組むことができるようになり、何事にも主体的に取り組む姿勢につながると考えた。

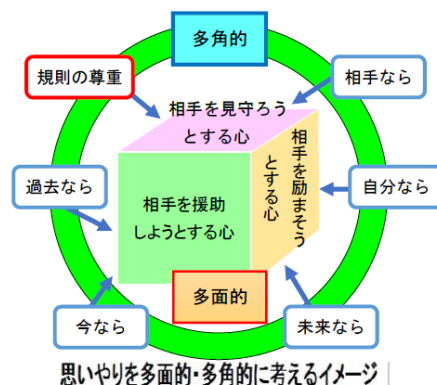
本校の校区内は、商店街や工場、住宅地も多く、市役所や平成26年度に世界文化遺産に登録された富岡製糸場もある市の中心地である。学校生活全般の様子を見ると、本校の生徒は明るく素直で、互いに協力し合うことのできる生徒が多い。その反面、SNSなどの普及による生活の変化から、人間関係を上手に築いていくことが苦手な生徒が多い。学習面では、与えられた課題に対しては真面目に取り組むことができるものの、指示待ちになってしまうことも多く、主体的に行動する能力や態度は十分身に付いているとは言えない。そこで、多面的・多角的な意見交流を活用した道徳科授業展開の工夫を取り入れることによって、生徒が主体的に課題解決に取り組めるようになると考え、本主題を設定した。

### 3. 研究のねらい

道徳科の学習において、生徒一人一人が主体的に課題解決に取り組めるようにするために、多面的・多角的な意見交流を活用した有効な授業展開を明らかにする。

### 4. 研究の概要

本研究は、多面的・多角的な意見交流を活用した道徳科授業展開の工夫を通して、主体的に課題解決に取り組む生徒の育成を目指したものである。具体的には、道徳科の授業において、生徒が主体的に取り組めるような、多面的・多角的な意見交流の仕方を教師が考え提案をしていく。そして、「多面的・多角的な意見交流を活用した道徳科授業展開の工夫」として「こんな手立てが有効でした」「こんな方法も効果がありました」のようにまとめ、それを本校職員の知的財産として蓄積していく。

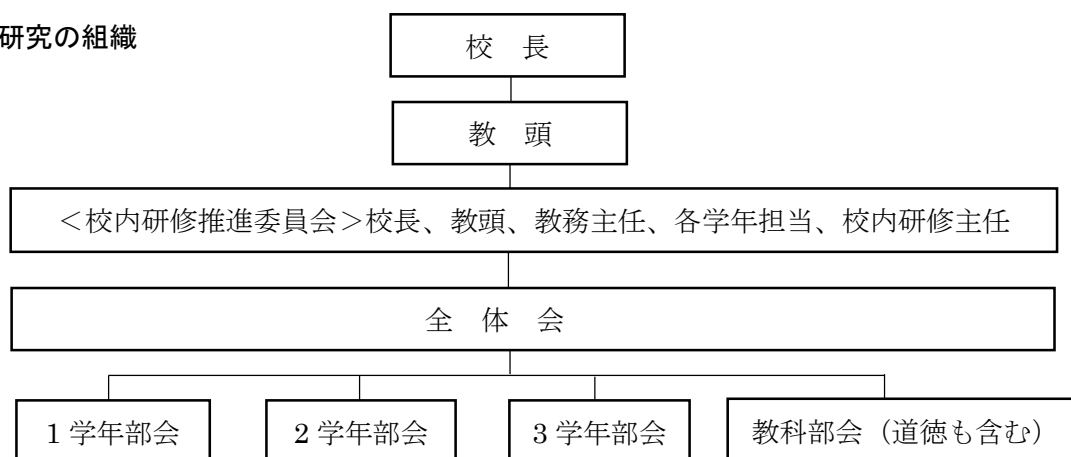


また、「多面的・多角的」という言葉について本校では、

多面的：道徳的価値が持つ本質的な側面（多面性）を様々な面から捉えること  
 多角的：視点（立場や時間，他の道徳的価値など）を変えながら道徳的価値を捉えること

と捉え、研究を進めていく。

### 5. 研究の組織



### 6. 研究の計画

1 学期	研究主題・副主題（手立て）の設定、先行研究、文献研究 研究授業の計画、道徳評価に関する研修 ※要請訪問、計画訪問
2 学期	研究授業の実践（検証） ※講演会、人権教育研究授業
3 学期	研究授業の実践（検証） 課題改善に向けての手立ての設定 研究のまとめ（成果と課題）

#### <参考文献>

○文部科学省『「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について（報告）』

○佐藤 朋広『小学校における「考え，議論する」道徳科授業の在り方に関する研究』

岩手県立総合教育センター